

比較研究 — 東北の6県都

— 「住みやすさ」からみる都市の姿 —

中村 實*

Comparative Study of Six Prefectural Capitals of the Tohoku Region:

The Character of Each City

from

the Point of View of the Convenience of Citizen Life

NAKAMURA Makoto

1. はじめに
2. 6都市の素描
 - (1) 青森市 (2) 盛岡市 (3) 秋田市
 - (4) 仙台市 (5) 山形市 (6) 福島市
- 参考 好きな都市、行ってみたい都市
3. 統計データにみる6都市
 - (1) 人口とその動態
 - (2) 交通とアクセス
 - (3) 医療と健康
 - (4) 気候と生物
4. 6都市の国際交流
5. 6都市の憲章、宣言、市歌など
6. 住みよさランキング（「東洋経済」算出）
7. おわりに

* 東北文化学園大学教授 Professor of Tohoku Bunka Gakuen Univ.

e-mail: nakamura@hss.tbgu.ac.jp

1. はじめに

“住めば都。”ということわざがある。

設備のよい音楽堂や病院があり、バスや地下鉄が便利に利用できるし、世界各地の料理や品物を食べたり、買ったりすることができるので、住居や庭が狭い、風通しや日当りが悪い、道路はいつも渋滞、それでも大都市に住みたいという人もいる。

反対においしい空気や水、静かさや隣人との心のこもる付き合い、美しい風景や楽しい芸能に恵まれた地域に住みたいという人もいる。だからこそ「住めば都」なのかもしれない。

ひるがえって地方分権、市町村合併などが加速化されている現在、人々にとって「住めば都」つまり「住みやすいまち」「住みたくなるまち」とはどんなところだろうか。

東北地方6県の県庁所在都市についていくつかの手がかりを用いて比較してみた。

2. 6都市の素描

(1) 青森市

ニューヨークと青森市の共通点は？と尋ねられて即答できる人は地図や地理にかなりの深い関心を持っているからだ。つまり両市はほぼ北緯41度線上に位置している。

さて青森市は江戸時代、東廻船の起点として発展した。寛永元（1624）年、津軽2代藩主信牧の命を受けた森山弥七郎が、海底が平坦で錨泊に適することに着目して築港。江戸廻米の積出港となった。

明治に入ると北海道と本州の結節点として重要な位置を占め、列車航送の青函連絡船の発着港の歴史を刻んだ。今なお東北本線、奥羽本線、津軽海峡線といった鉄道の大動脈の支点となっており「交通都市」の名に恥じない。

産業としては周辺農村部にコメやリンゴの産出地を擁する他、伝統的な中小企業による食品、製材、木工品、機械、金属などの工業もかなり立地している。

平成6（1994）年、巨大木柱が発見されて一躍注目を浴びた約4,500年前の一大縄文集落、三内丸山遺跡は今青森市の観光の目玉となっている。全体で約38万㎡の規模とみられ、国指定の史跡で、高さ17.4m、三層構造の丸太小屋を中心に重要な見どころが多い。

十和田国立公園へのバスの起点でもあり、市街東部の合浦（がっぼ）公園や、北東端には昭和37（1962）年に市域に編入した浅虫温泉などがある。ここは北部の夏泊半島や椿山島巡りなどの根拠地でもあり、夏は海水浴場、冬は駅からほど近くのスキー場が賑わう。県営浅虫水族館もある。

8月3～7日のねぶた（佞武多）祭は東北三大祭（近年は山形花笠祭を含め四大祭とも）の一つで「重要無形民俗文化財」である。

青森空港からはソウル、ハバロフスクに航路が開かれ、地の利を活かしての環日本海経済圏の一角となるべく振興策が練られている。

平成14年12月1日、東北新幹線は「はやて」をもって八戸駅まで延伸するが、計画中の「新青森駅」の開業までは未だ時間がかかる。

(2) 盛岡市

北上盆地北部にあって、岩手県のほぼ中央に位置する行政、教育、文化、交通など都市機能の中心都市である。東北新幹線から秋田新幹線こまち号を分岐させるターミナルであり、「北東北地域」への玄関口として近年とみにその重要性を増しつつある。

雫石（しずくいし）川北岸、北上川と中津川沿いに市街地があり、盛岡駅から東方に向かって商店街や官公庁、オフィス街が伸びる。

市街北部には岩手大学や農林水産省東北農業試験場、西方には厨川（くりやがわ）柵跡や繫（つなぎ）温泉などがあり観光客も多い。

盛岡城（不来方〈こずかた〉城）跡は今は岩手公園となっていて園内には見どころが多い。

石川啄木「不来方のお城の草に寝ころびて空に吸われし十五の心」の歌碑や新渡戸稲造「願わくは われ太平洋の橋とならん」などの碑が建っている。

なお、中津川に架かる上の橋（かみのはし）の欄干擬宝珠（らんかんぎぼし・15個）は、慶長4（1599）年の作と伝えられている。

ここは古来「南部馬」の産地で、牛馬の市がたっていた。したがって6月15日の「チャグチャグ馬っ子」の行事は馬を慰労する意味があった。

盛岡名物の「わんこそば」は、小さな器に仲居さんが次々とそばをつぎ足してくれるのを急いで口の中へ流し込む食べかたで、おいしいか否かは別として客人に対するもてなしとしての気持を表現したご馳走といえよう。

近年これに冷麺が加わった。世界地図をみると盛岡とほぼ同じ緯度に位置する平壤（北朝鮮の首府）の名物といわれる冷麺を売り出したところ大当たりしたものである。

南部鉄器、南部キリ、紫根染などの伝統工業もみられるが、消費都市的性格が強く、平成12年の特例市移行により新段階への市政の展開が期待される。盛岡駅西口では複合インテリジェントビル「マリオス」の開業で県都としての都市拠点形成が進行中である。

(3) 秋田市

雄物川の河口にあり、日本海に臨む商工業都市で、1997年には中核市に昇格した。対夷政策として出羽柵（秋田城）を構築し、慶長7（1602）年、前水戸藩主佐竹義宣が川尻山に久保田城を築城した。

以来佐竹藩20万石の城下町として発展し、明治4（1871）年秋田と改称したが、城の名称は残され、城跡は県立千秋公園となり、藤田嗣治の大壁画「秋田の行事」を所蔵する美術館や佐竹資料館などがある。

産業としては化学、非鉄金属、食料品、木材、木製品、パルプ、石油製品、清酒醸造など多面にわたる工業が隆盛。清酒では高清水、新政、黄金井、竿灯、秋田晴、銀鱗などがよく知ら

れている。特産品に秋田焼、秋田八丈、秋田銀線などがあり、人気も高い。

秋田市出身の歌手東海林太郎は県立第一中学校から早稲田大学に進み、一旦社会人となってから歌謡曲界にデビューした異色の人。なお、市東部の手形（てがた）には国学者平田篤胤（ひらたあつたね）の墓がある。

旧秋田空港は昭和36（1961）年10月1日に第3種空港として秋田市割山地内に開港し、順調に発展していた。しかし航空機の大型化などにもない、JR秋田駅の南東約25kmの河辺郡雄和町地内に昭和56（1971）年6月26日、第2種B級秋田新空港として開港した。

一方秋田港は1995年に韓国釜山港との間に外貿定期コンテナ便の就航以来、釜山便の増便、ロシア・ボシエツト便（月3便）の就航など外国貿易促進の環境が整いつつある。

国内カーフェリーとしては敦賀、新潟、秋田、苫小牧を結ぶ定期航路があり、毎週4往復している。港湾には地上百mの高さのポートタワーと海の展示館から成る文化交流施設（愛称セリオン）があり、人々で賑わっている。

明治29（1894）年、旧第一国立銀行秋田支店を母体とする現秋田銀行が営業を始めたが、当時の本店の建物が市に寄贈され「赤れんが郷土館」として内外の人々を集めている。

（4）仙台市

東北地域で人口最大、唯一の政令指定都市仙台は宮城県のほぼ中央部に位置し、市域は全国の市のうち第6位の広さを誇り、東は太平洋から西は奥羽山脈に至り山形市（山形県とも）と境界を接するほどである。

神亀元（724）年、多賀城に鎮守府、国府が造営された折、木ノ下（きのした）に陸奥国分寺、国分尼寺が建立された。慶長6（1601）年、伊達政宗が青葉山に青葉城を築造、以来仙台藩（62万石）の城下町として繁栄を極めてきた。城跡付近には東北大学がある。

明治以降は司法、運輸、通信などの国家機関や、各種教育機関などの開設が続き、「東北の治府」あるいは「学都」とよばれている。

国道4号線（陸羽街道）、同45号線（仙塩街道）、同48号線（作並街道）がある他、東北縦貫自動車道や東北新幹線が通じ、文字通り東北交通の一大拠点となっている。

本州内、東京以北では唯一の地下鉄（市営）が開業しており、現在はワンマン運行の南北線一本だけだが、目下、東西線開業に向けて諸準備が進捗中である。

なお、市内周辺の一層の工業発展を目標として掘り込み式の仙台港が築造されたが、近年隣接の塩竈港と合体して特定重要港湾に昇格している。

地方自治法（252条19）では「大都市行政の効率化と市民の利便の向上のため、政令で指定する人口50万人以上の市」を政令指定都市（昭和31（1956）年に創設）とよんでいる。仙台市も市制百年に当たる平成元（1989）年に指定を受け、現在の5区制（青葉、宮城野、若林、太白、泉）を敷いた。

自治体博物館としては草分け的存在の仙台市博物館は昭和36（1961）年、仙台城三の

丸跡地に開設され、多くの人々が訪れている。

独創的な科学技術研究で世界的に知られる機関が多数市内にあり、「研究開発と産業開発の国際拠点に」という〈東北インテリジェントコスモス構想〉の中核都市として日本の学術・技術・情報首都を目標に進んでいる。

(5) 山形市

山形県の地勢は極めて複雑で、県域は通常村山、置賜（おきたま）、庄内、最上に四分されるが、山形市は県の南東部、宮城と県境を接する位置にあり、山形盆地南部に載っている。

羽州街道、笹谷街道、六十里越街道などが交わる宿駅として発展してきたまちである。

慶長年間（1590～1615）、最上義光（57万石）時代は仙台と並ぶ大城下町であり、きちんとした城下町の建設が行われ、現在の市街地の原型が形成された。ベニバナの集散地であったので「紅花商人の街」ともよばれてきた。

しかし、以後藩主の交代が激しく、幕末には老中水野忠邦の子孫が5万石を保っていた程度に衰退した。

明治期になると県令三島通庸（みしまみちつね）によって近代的な官庁街づくりが行われ、旧県立病院は山形市郷土館、旧県庁は山形県郷土館「文翔館」として活用されている。

第2次大戦前までは合金鉄工場があり、戦時中は日本飛行機会社の工場設置が契機となって、戦後は鋳物、ミシン製造工業が活況を呈したが現在は桐油紙、和傘の生産などもみられる。

農業面ではベニバナの集散地である他、ホップや繭、果樹としてリンゴ、ラ・フランス、ブドウ、サクランボなどが目立っている。

蔵王樹氷まつり（2月）、花笠祭（8月、東北四大祭の一）、日本一のいも煮会（9月）などイベントもいろいろ行われている。

市北部には、芭蕉が「閑かさや岩にしみ入る蟬の声」と詠んだ「山寺（やまでら）立石寺」があつて、四季折々訪れる人が絶えない。

山形新幹線（つばさ号）の開業により、東京は鉄道による日帰圏に入り、2001年には特例市に指定された。さらに中核市への昇格を目標に広域交流拠点機能の拡充のため、山形駅西口の再開発が進んでいる。

生活、文化、情報、交流をテーマにした「山形の新しい顔づくり」を目指し「エキサイト（駅西都）整備事業」を展開中である。

(6) 福島市

阿武隈川と須川の合流点の西岸、福島盆地に広がる福島市の市域は広く、全国第11位にある。福島県の最北部にあり市境はそのまま宮城、山形両県との県境となっているほど。

本年平成14（2002）年は板倉家が福島城の城主となってから丁度300年の節目にあっている。それ以前は伊達家代々が支配していた。

奥州街道の宿駅であり、阿武隈川水運の要所であつて交通都市の性格が強い。現在でも東北

線と山形線、東北新幹線と山形新幹線（つばさ号・新庄まで）それぞれの分岐点であり、民鉄福島交通の飯坂線、第3セクター鉄道阿武隈急行線の始終点を福島駅が果たしており、交流機会の増大にともなう役割の重要性はさらに増すことが予想される。

市域内には水田や全国有数のナシ、モモ、リンゴなどの果樹園が広がり産額も大きい。食品加工やガラス、繊維、機械工業もある工業都市的な性格が強く、6都市の中では第2次産業の就業者割合が最も高い（27.8%）。

国道115号線、磐梯吾妻スカイラインなどを利用すると市内の温泉、土湯、ぬる湯、高湯などにほどなく着くことができる。また秋保、鳴子（いずれも宮城県）とともに奥州三湯とよばれる飯坂温泉へは福島交通の電車が運んでくれる。

日本最古の共同浴場「鯖湖湯」や、義経・弁慶ゆかりの寺とされる医王寺などは飯坂投宿の折の散策先としてすすめられる。

福島県は地勢上、太平洋岸の浜通りと、西側の会津地方、そして中央部の中通りに3分されているが、福島市は中通りでも最北端にあつて、県庁所在都市としては余りにも不便とされてきた。そして明治15（1882）年、大正15（1926）年、昭和10（1935）年の3回にわたり、県庁の移転問題が県議会で激しく討議されたが、結局は移転はなかった。

「新しい風ふくしま」をテーマに、交流人口の増大、高齢者の都心居住推進などによって中心市街地の活性化を図るため「自然、街並み、歴史を生かした街づくり」が進行中だ。

（参考）好きな都市、訪ねたい都市

日本国内で好きなまち、訪ねてみたいまち（市町村）はどこか、と尋ねられた時、どんなまちが挙げられるのだろうか。東北の6県都を様々な角度から眺めているうちにふとそんな気持が浮かんた。

手許にいくつかの調査結果がある。同じ学会に属し、一緒にシンポジウムなどに参加したこともある溝尾良隆氏（立教大学観光学部教授）の著書「ご当地ソング讃・東洋経済新報社・1998年刊」から引用してみた。

彼がご当地ソングを調べた結果、「うたの人気まち・地域ベスト10」の首位は東京都区部でその数は173曲、2位はぐんと少なく、大阪市43、長崎市ですら3位で28曲だった。残念ながら東北6県都はその中に入っていない。

次に全国13都市についての、自治体職員（65名）と立教大学生（100名）による評価（10点満点）をみると、自治体職員の1位は札幌で8.3点、2位は仙台で7.9点であった。東京は6.0点で11位。

一方、立教大学生は1位京都で8.4点、仙台は7位で6.9点であった。

次に日経流通新聞の「好きな出張地」の調査（全国の男女、1992年）によると、1位は京都で18.2%であった。2位東京、3位大阪と続くが、29歳以下では大阪が1位であった。仙台は4.0%で7位である。

同じく1992年に雑誌「The 21」の編集部が調べた東京のOL100人の「行ってみ

たい都市」では1位神戸、2位札幌、3位長崎と続き、仙台は第10位であった。

いくつかの調査を通してみると、東北の6県都の中では辛うじて仙台が名を連ねているものの、他の5都市は全く顔を出さないというのはいかにも残念である。

東北地方を全体としてみると、冬の雪、春の一斉開花、夏の四大祭、秋の紅葉そして四季を通じて各地に沸き出す温泉などで行楽、観光の対象としては人気が高い地域なのに一つ一つの都市の魅力は今一つということかも知れない。

(第1表) 6都市の基礎データ

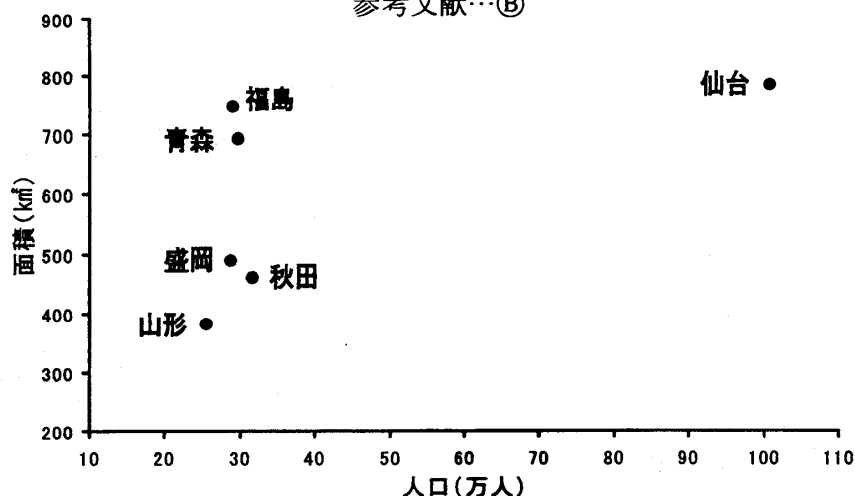
参考文献…④、⑤

	青森	盛岡	秋田	仙台	山形	福島
面積 (km ²)	692.38	489.15	460.10	783.54	381.34	746.43
〈全都市中の〉順位	14	29	35	6	47	11
人口 (人)	297,763	288,844	317,563	1,008,024	255,333	291,117
平成12国調〈順位〉	66	74	62	12	83	68
人口密度 (人)	430	576	680	1,253	655	387
〈順位〉	435	381	344	245	353	461
世帯数	112,455	115,270	122,957	421,040	90,079	104,509
一世帯当人員 (人)	2.64	2.50	2.58	2.39	2.83	2.78
通勤圏人口※	355,621	490,952	521,431	1,859,257	546,441	478,775
〈順位〉	128	97	92	12	90	99
自家用車保有台数 (百世帯当り・台)	78.3	90.5	95.1	91.4	115.2	103.8
〈順位〉	518	377	322	359	147	243
産業別 就業人口 (%)						
第1次	3.3	3.9	2.6	1.5	6.1	7.2
第2次	19.2	16.5	21.3	18.8	24.8	27.8
第3次	77.4	79.7	76.1	79.7	69.1	65.1

※ 通勤圏人口…95年国勢調査で当該都市へ通勤する者の比率が5%以上の市区町村（自市区を含む）の、住民基本台帳の総人口（2001年3月末）を合計したもの。「東洋経済」算出による。

(第1図) 6都市の人口と面積

参考文献…⑥

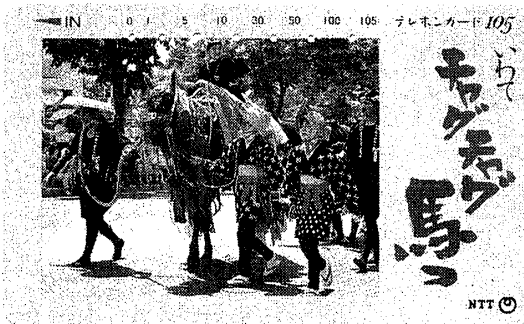


(第2図) プリペイドカードでみる6都市の顔

青森市



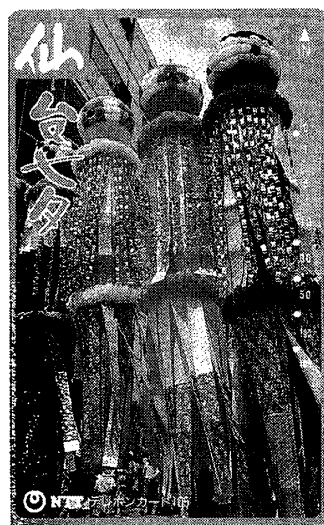
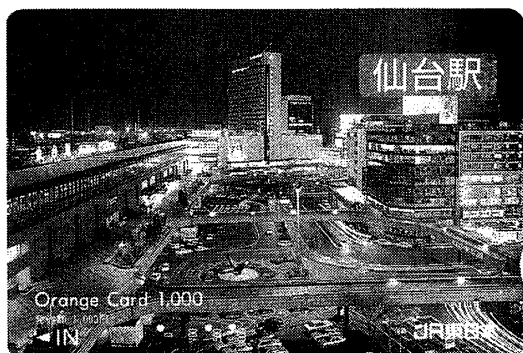
盛岡市



秋田市



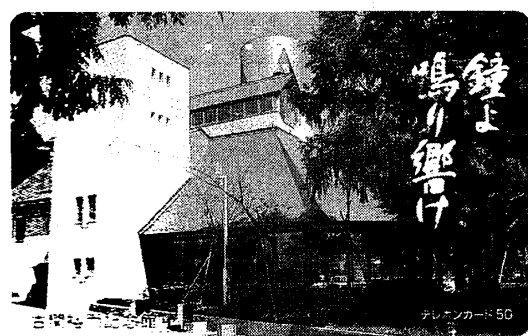
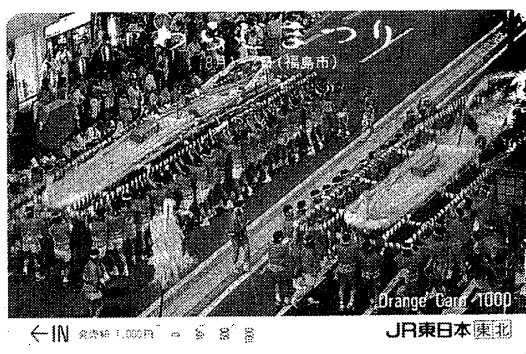
仙台市



山形市



福島市



(第2表) 6都市の市制施行年比較

参考文献…◎

1889 (明治22) 年	(弘前) 盛岡 秋田 仙台 山形 (米沢)
1898 (明治31) 年	青森
1899 (明治32) 年	(会津若松)
1907 (明治40) 年	福島

() は県庁所在地でない。

(第3表) 6県の県人口の推移 (全国順位)

参考文献…①

	青森	岩手	秋田	宮城	山形	福島
1873 (明治6) 年	41	34	29	32	25	21
1908 (明治41) 年	35	31	29	30	27	12
1930 (昭和5) 年	32	30	29	24	28	14
1947 (昭和22) 年	32	29	30	21	28	15
1970 (昭和45) 年	27	29	30	17	31	16
1995 (平成7) 年	28	30	35	15	33	17
2000 (平成12) 年	28	30	35	15	33	17

(第4表) 6都市の人口動態

参考文献…①、②

	青森	盛岡	秋田	仙台	山形	福島
0～14歳人口 (%)	14.7	15.4	14.5	14.8	14.9	15.7
15～24歳人口 (%)	12.2	13.2	12.1	14.9	12.2	12.6
65歳以上人口 (%)	17.2	16.1	18.1	13.8	20.1	18.5
昼夜間人口比① (%)	102.17	106.39	106.57	109.27	108.40	105.07
県総人口 (人)	1,475,635	1,416,198	1,189,216	2,365,204	1,244,040	2,126,998
本市人口 (人)	297,763	288,844	317,563	1,008,024	255,333	291,117
県に占める 本市の割合 (%)	20.17	20.39	26.70	42.61	20.52	13.68③
性比②	89.7	92.1	91.7	96.9	93.3	93.9

① 昼夜間人口比 = $\frac{\text{昼間 (他地域からの通勤・通学者を含む) 人口}}{\text{夜間 (定住) 人口}}$

② 性比 = 女性100人に対する男性の数

③ 福島県はいわき市 (360,143人、16.93%) と郡山市 (334,845人、15.74%) の2市が県都の人口を上回っているので集中率が低い。

3. 統計データでみる6都市

6県都についてなるべく様々なデータによって比較してみたいと考えた。さすがに東北6県の県都であるから統計に関しては精緻なものが揃っているが、これをいくつか並べてみると本当の意味での「住みやすさ」が描き出せるのだろうか、という疑問にぶつかった。

およそ「住みやすさ」などは感覚的、主観的なものであるから、といってしまうとそれまでである。そこで、最少必要限と考えられるもの四分野に限ってとり上げ、比較することとした。無論これだけで十分とした訳ではない。行政の仕組みや、予算、財政の規模、産業経済の実態や展望などについては別の機会に譲るとして、本稿ではあくまでも「住民生活」に主眼をおいたことをここに記しておきたい。

人口とその動態については、調査時点から既に約2年間が経過してしまったが、平成12年10月1日の「第17回国勢調査」の数字に拠った。

(1) 人口とその動態

6都市の基礎データ（第1表）にみるように政令指定都市の仙台（1989年指定）が百万人を超え、突出して大きい他は5市とも約25万人から32万人までの間に分布しており、最少は山形で全国83位である。

通常、県都（県庁所在都市）はその県における人口が最大である場合が多いが、例外もいくつか見られる。山口県の下関と山口、三重県の日市と津、静岡県浜松と静岡、福岡県の北九州と福岡などである。

そして福島県では1位いわき市、2位郡山市、3位が県都の福島市であり（第4表参照）、珍しい例といえる。

人口30万人以上、面積100平方キロ以上の要件を充たす市を「中核市」とよぶが、郡山（1997）も、いわき（1999）も既に中核市に指定されたが、福島は未指定である。

なお秋田（1997）も中核市となっている。

県都の人口がその県人口のどのくらいの割合を占めているかについてみると（第4表）、仙台が約43%であるのに対し、福島は14%弱である。

秋田が4分の1強、青森、盛岡、山形はそれぞれ5分の1で、地勢や、対抗市の有無がこのような数字を示すに至っている。

なお「中核市」の予備軍とも目される「特例市」についてみると、人口20万人以上の市であって、行政事務処理に必要とされる専門的知識、技術を備えた組織のあることがその要件になっている。

6都市では盛岡（2000）、山形（2001）が特例市で、県都ではない青森県の八戸（2001）も既指定市であり、青森と福島については検討中ということである。

平成14年12月1日、東北新幹線は八戸（市の人口242千人）まで盛岡から延伸するが、青森市（人口298千人）にとってはまことに残念なことといえよう。人口性比（女百人につ

き男の数)をみても青森89.7に対し八戸は93.5であり、まちとしての力強さがこのような形でも表わされている。

なお6都市の性比は仙台(96.9)が最高、青森(89.7)が最低、残り4市は90を上廻っている。

常住人口と昼間人口との比率を示す昼夜間人口比は6都市とも100を上回っていて、都市の活力が看取れるが、青森は其中でも最も低い点が注目される。

また年齢3区分人口をみると、高齢人口比は仙台の13.8%が最も少なく、隣接の山形の20.1%が最高で、高齢化の進捗は6都市それぞれの特色を示している。

都市の活力を見るには人口の量のみならず質をみる必要があるが、ここでは割愛する。

(2) 交通とアクセス

空路

一県一空港原則がほぼ行き渡り、空港の無い県は首都圏と近畿圏の一部となった。東北6県も既に空港を擁し、2空港を擁する県すらもみられる。高速交通網(空路、新幹線鉄道、高速自動車道)の3点セットがほぼ充足されるに及んで、みちのくもみちのくでなくなりつつあるといえるかも知れない。

とにかく、6都市は空港への距離で遠近の差はあるが、国内主要地点と空路で結ばれていることは大変喜ばしい。

第5表によってその実情をみるができるが、福島、仙台、盛岡(花巻)3空港から東京への空路は廃止されてしまった。これは新幹線鉄道との競合の結果である。

昨今、東北の空港は国際線の開設に注力しており、いくつかは定期航路の運航も行われていて、「国際化は地方から」が実現されつつあり、国際理解、国際協調の面からも心強い。

鉄道

東北新幹線の開通により福島、仙台、盛岡の3市はその恩恵を著しく受けたが、山形、秋田両市もミニ新幹線(車体は在来線と同じ大きさながらレール幅が広軌〈新幹線並み〉なので速度が出せる)の開通で東京との時間距離が短縮された。青森のみが新幹線から外れており、平成14年12月1日の八戸延伸に続いて新青森駅の開業を一日千秋の思いで待ちこがれているところだ。

新幹線の開通による沿線地域の経済振興、地域振興については様々な研究結果があり、今ここに紹介するまでもないが、空路や高速自動車道路を利用する長距離バスなどとの競合について、国の政策が今一つ明確でなく、省庁再編によって誕生した国土交通省に対する期待は大なるものがある。

高速バス

高速自動車道路網の充実にともない、東北地方も様々な面で交流が活発になっている。とりわけ、都市間高速バスや、夜行高速バスの運行に拍車がかかり、空路、新幹線網から取り残された感のある都市や地域住民に対してはまたとない利便性を提供している。

空路や新幹線と異なり固定設備がほとんど不要で、利用客数によって運行便数の増減をはかることができ、運賃は割安、夜行の場合でも疲労度や快適性も余り劣ることなく、さらに宿泊費の節約ともなるので近年とみに人気が高い。

(第5表) 東京までの交通アクセス

参考文献…⑩

		青森	盛岡	秋田	仙台	山形	福島
航空							
空港名		青森	花巻	秋田	仙台	山形	福島
空港までの所要時間		40分	50分	40分	40分	45分	75分
東京までの	運賃	25,500円	×	20,500円	×	15,000円	×
	時間	75分	×	65分	×	60分	×
	回数／1日	8便	×	7便	×	1便	×
他の仕向空港 (国内)		札幌 名古屋 大阪 沖縄	札幌 名古屋 大阪 沖縄	札幌 名古屋 大阪 沖縄	東京を除く 18空港 (別図参照)	札幌 名古屋 大阪 沖縄	札幌 名古屋 大阪 沖縄
県内の他の空港		三沢		大館能代		庄内	
鉄道							
列車名		はつかり +はやて	やまびこ	こまち	やまびこ	つばさ	やまびこ
東京までの	運賃	16,920円	13,840円	16,810円	10,590円	11,030円	8,700円
	時間	220分 (乗継時間 2分として)	141分	229分	106分	147分	87分
高速バス							
東京までの	運賃	10,190円	7,850円	9,450円	6,210円	6,420円	5,000円
	時間	9時間30分	7時間20分	9時間20分	7時間30分	8時間0分	5時間30分

(3) 医療と健康

少子化時代であれば生まれてきた子どもを傷病から守り、高齢化時代であれば健康的に次第に弱者となる高齢者を老化や疾病から守ることは、家族問題とはいえ住む地域の医療体制の優劣が大きくクローズアップされてくる。

救急病院が少ないとか、公立病院のない都市には住みたくないといった会話がごく日常的に交わされるようになってきた。まちの財政からみて全く無理な要求もなくはないが、でき得れば医療と健康に心配が少ないまちに住みたい、と思うことはむしろ当然である。

第6表は健康と医療についていくつかのデータを示したものである。

病院または一般診療所一か所あたりの人口は概ね1000人だが、秋田と仙台ではこれをかなり上廻っている。また医師一人あたりの住民数は青森が最も多く、盛岡や山形の2倍に近い。傷病の種類や程度にもよるので軽々には論じられないが、絶対数の少なさには一抹の不安を抱かざるを得ない。

(第6表) 6都市の健康と医療

参考文献…④に一部加工

	青森	盛岡	秋田	仙台	山形	福島
病院						
一般診療所数	294	287	262	828	233	284
全国順位	49	52	62	12	75	54
人口(人)	297,763	288,844	317,563	1,008,024	255,333	291,117
一所当り(人)	1,012.79	1,006.42	1,212.07	1,217.42	1,095.84	1,025.05
医師						
数	528	1,067	987	2,840	941	923
全国順位	84	35	36	11	39	42
医師一人当り(人)	563.94	270.70	321.74	354.93	271.34	315.40
公共下水道						
普及率	58.6	81.2	67.5	94.8	71.5	39.0
全国順位	260	133	208	68	182	406
都市公園						
一人当面積(m ²)	8.79	9.12	11.99	9.43	10.87	8.98
全国順位	268	133	148	233	172	257
ゴミ排出量(g)						
1人/1日	1,540	1,191	1,326	1,305	1,130	1,249
全国順位	649	512	588	582	449	546

(4) 気候と生物

6都市の気候をみると次のようになっている。

湿度・青森、山形が75%、福島69%で最高最低の差は余りない。

降水量・最多は1713.2mmの秋田、最少は1105.0の福島で両市間608mmの差はかなり大きい。

日照時間・最長は仙台の1842.6時間、最短は秋田の1597.4時間となっている。

平均気温・最高12.8℃の福島、最低10.0℃の盛岡で約3℃の差がある。

こういった気候の地域格差は第付図の生物「季節観察カレンダー」によっても認められる。

植物や昆虫、鳥類などのうち、日常比較的良好に観察できるものを選んでこのカレンダーが出来たのだが、どの都市に住むかの選択基準にこのようなものを参考にするのも一案だ。

ウメの開花は仙台と青森とは54日間の差があり、感覚的にも差が大きい。しかしソメイヨシノは11日間の差であるから生物の種類にもよることがわかる。ツバメは最初に山形に飛来するというのも興味深い。

(第付図) 6都市の生物「季節観察カレンダー」

参考文献…⑥

月	日	事項	都市	日	事項	都市
2	28	ウメの開花	仙台			
3	09	ウグイスの初鳴	福島			
4	02	タンポポの開花	福島	20	ウグイスの初鳴	青森
	06	ツバメ初見	山形	23	ウメの開花	青森
	06	モンシロチョウ初見	仙台	24	ツバメ初見	青森
	11	ソメイヨシノ開花	福島	24	モンシロチョウ初見	青森
	15	ソメイヨシノ満開	福島	25	タンポポの開花	青森
5	25	ヤマツツジ開花	福島	26	ソメイヨシノ開花	青森
	06	ノダフジ開花	福島	01	ソメイヨシノ満開	青森
				14	ヤマツツジ開花	青森
6				20	ノダフジ開花	青森
	27	ホタル初見	秋田			
	19	アブラゼミ初啼	秋田、山形	23	ホタル初見	青森
7				30	アブラゼミ初啼	青森
	03	サルスベリ開花	盛岡			
	16	ススキ開花	山形	15	サルスベリ開花	秋田
8	25	モズ初鳴	仙台	29	ススキ開花	青森
	25	イチョウの黄葉	盛岡	16	モズ初鳴	秋田
10						
	03	イロハカエデの紅葉	盛岡、秋田	11	イチョウの黄葉	仙台
11				17	イロハカエデの紅葉	山形

4. 6都市の国際交流

世界的規模での交通網の発達や、情報化の進展により、近年、都市相互間の国際交流が活発に行われている。2002年サッカーワールドカップの開催により、世界各国からの選手たちが日本各地にキャンプを張ったことなどはその好例といえよう。

日本の諸都市はサッカーはさておき、世界の諸都市と姉妹都市、友好提携を結び、国際交流推進の大きな力となっている（第8表）。

これは国際化時代にふさわしい人材の育成や、国際化に対応する環境整備にも有用であり、都市間相互に止まらず、県や町村、商店街、鉄道駅、港、大学や高校などに至るまで多くの組織、機関が国際交流を行なっている。

東北では6県都のうち、青森、福島を除く4都市が10か国、15か都市との間で姉妹都市提携を結んでいる。最も古い例は仙台市と米国リバサイド市との間だが、既に45年の歴史を刻んでいる。他の都市もそれにならって国際交流に注力してほしいものである。

（第7表）6都市の国際交流（姉妹提携）の状況

参考文献…⑩

	都市名	所在国	提携年月日
盛岡	ビクトリア	カナダ	1985. 5. 23
仙台	リバサイド	米（カリフォルニア）	1957. 3. 9
	レンヌ	仏	1967. 9. 6
	ミンスク	ベラルーシ	1973. 4. 6
	アカプルコ	メキシコ	1973. 10. 23
	長春市	中国	1980. 10. 27
	ダラス	米（テキサス）	1997. 8. 29
秋田	蘭州市	中国	1982. 8. 5
	バッサウ	ドイツ	1984. 4. 8
	ウラジオストク	ロシア	1992. 6. 29
山形	キッシュビューエル	オーストリア	1963. 2. 17
	スワン・ヒル	オーストラリア	1980. 8. 6
	吉林市	中国	1983. 4. 21
	ウラン・ウデ	ロシア	1991. 2. 16
	ボルダー	米（コロラド）	1994. 4. 22

※青森市、福島市はなし。

5. 6年の市民憲章、諸宣言、市歌など

地方分権とか、市町村合併の促進とかいった考え方は政治家や、行政当局のテーマとはなっているけれども現実はそのまちの住民には理解しにくい面が多いように思われる。

住民が自らの住み、暮らすまちに愛着や誇りを強く抱くときその問題は、解決への一歩となるだろう。それ故にこそ行政当局や議会は「市（町・村）民憲章」を制定したり、様々な「宣言」を行なったり、ゆとりがあれば「まちの歌」なども作って住民の目を覚ませることに躍起となっているのだ。

神奈川県には37の市町村（19市17町1村）があるが約9割の市町村が「住民憲章」を制定している。東北6県都についてもそれぞれがどのような「市民憲章」を制定しているのか、調べてみた。

また、多くの市町村が制定している「諸宣言」や、市歌、市民歌などについても調べてみた。歌詞にはそれぞれの町の風景や歴史地理的事物などが描かれ他所者にも有意義である。

20世紀後半の日本は多くの人口を抱えながら、ほとんど無目的に漂流していたと私はみている。国家に理想像なく、個人に手本がないままについに21世紀を迎えてしまった。

地方分権や市町村合併を促進するならばそのための「像」を住民に理解させることが大切である。それを見越した訳ではないが、多くの都市が「市民憲章」や「都市宣言」を制定し、住民への意識づけに心を砕いている。

6都市を見ると、その他に市歌や市民歌まで制定して、いわば住民としての誇りと連帯感を涵養している。長野では何かの会合で必らず歌われるのが県民歌「信濃の国」である。

地理、歴史、文化、自然、出身の大立者などが描かれた実にすばらしい歌詞と親しみやすいメロディなので長野県民でない私も折々口ずさんでいる。あるカラオケ店ではそのCDにも出会った。

住民の何割が憲章や宣言、市歌（市民歌）を知っているかを知るもの大切だが、こうした規範の有無は都市の自立性に影響を与えないではないだろう。

青森市（市民憲章・諸宣言・市民歌）

「青い森」の誓いと祈り

青森市民憲章 （昭47年7月26日制定）

わたくしたちは、青い空、青い海、青い森にいだかれ、伝統のねぶたまつりに情熱をもやす青森市の市民です。

わたくしたちは、郷土あおもりを心から愛し、活気と魅力にあふれた理想のまちとするためこの憲章を定めます。

1. 緑と花を育て きれいなまちにしましょう
1. 健康で楽しく働き 豊かなまちにしましょう
1. 老人やこどもをたいせつにし しあわせなまちにしましょう

1. きまりを守り 平和な 住みよいまちにしましょう
1. 教養を高め 文化の香り高いまちにしましょう

諸宣言

平和都市宣言 (平成2年7月28日)

「男女共同参画都市」青森宣言 (平成8年10月22日)

青森市民歌 横山武夫作詞

木村 繁作曲

- 1 千古水すむ 十和田湖いだき
聳(そび)えて高し 八甲田山
空は北国 紺碧(こんぺき)ふかく
日輪あまねく 輝くところ
おゝ栄えゆく わが市(まち)
かぐわし その名 青森市
- 2 焦土(しょうど)のなかにも滅びぬ息吹よ
進取の精神 自由の伝統
いま新しき 大都市なりて
産業文化の 花さきみのる
おゝ栄えゆく わが市
かぐわし その名 青森市
- 3 善知鳥(うとう)の村の 昔も今も
港はいのち わきたつ希望
海をこえる 知識と富(とみ)に
心あかるく 伸びゆくよろこび
おゝ栄えゆく わが市
かぐわし その名 青森市

盛岡市(諸宣言と市民歌)

諸宣言

「平和都市宣言」(昭和33年12月20日)

「安全都市宣言」(昭和37年3月26日)

「非核平和都市宣言」(昭和59年9月27日)

市民歌 作詞東山重雄 補作小田島孤舟

作曲高田信一

1. 朝日射す 岩手の裾野
若駒の 声もさやかに
明けわたる 自由の光
ああこの土よ われらの都
盛岡は 盛岡は きょうも明けゆく
2. みどりの地 若やぐいぶき
北上の 流れゆたかに
盛りあがる 民主の力
ああこの土よ われらの都
盛岡は 盛岡は 日々に伸びゆく
3. 美しき 中津の川に
こずかたの 杜は色映え
いや高き 平和の調が
ああこの土よ われらの都
盛岡は 盛岡は あすも輝く

「盛岡市第3次総合計画」

平成7年から16年までの10か年を展望した「第3次盛岡市総合政策」に基づいて盛岡市は現在、新世紀にふさわしい街づくりを進めている。その指針ともいうべき考えかたを紹介しよう。

◎三つの都市像

- ・ 人が集い活力に満ちた北東北の交流拠点都市
- ・ 豊かな人間性をはぐくみ 世界にひらかれた教育文化都市
- ・ 恵まれた自然とともに生き 互いにささえあう健康福祉都市

◎五つの基本施策

- ・ 機能的で魅力ある都市の創造
- ・ 豊かで活力ある産業活動の展開
- ・ ふるさとの未来を支える人材の育成
- ・ 快適でうるおいのある環境の創出
- ・ 健やかで心のかよう地域社会の形成

秋田市（市民憲章と秋田市記念市民歌）

秋田市民憲章（昭和36年制定）

- 1 健康で働き、豊かなまちをつくりましょう。
- 2 あたたかく交わり、明るいまちをつくりましょう。
- 3 きまりを守り、住みよいまちをつくりましょう。
- 4 環境をととのえ、きれいなまちをつくりましょう。
- 5 教養を高め、文化のまちをつくりましょう。

諸宣言

非核平和都市宣言（昭和59年12月24日）

秋田市記念市民歌（昭和54年4月制定）

作詞 黒木玲子

作曲 藤原政幸

- 1 花かおる 千秋（せんしゅう）の園
光満ち はつらつ歩む
若人の 希望輝く
ふるさとのまち
ああさわやかな わが秋田
- 2 水きよき 旭（あさひ）の流れ
ケヤキ茂り 豊かな自然
集い来て 未来を語ろう
しあわせのまち
ああうつくしき わが秋田
- 3 雪いだく 太平（たいへい）の山
仰ぎみて 大地にもえる
若草よ 伸びゆく力
よろこびのまち
ああたくましき わが秋田

仙台市（市民歌など）

風よ雲よ光よ

仙台市民歌 （平成元年）

作詞 佐藤久美

補作詞 宗 左近

作・編曲 服部克久

1. きみもきみも 風になっていま
新しいふるさとをめぐってごらん
高く高く高く
生命（いのち）の歌
噴きでているよ 夢の噴水
あの青い大空のむこうまで
ああ 若い希望 ぼくたちの仙台
ああ 若い希望 ぼくたちの仙台
2. きみもきみも 雲になって ほら
爽やかなこの都市（まち）を眺めてごらん
広く広く広く
祈りの花
咲きでているよ 瞳の虹
あの高い銀河へとどこまで
ああ 美しい愛 わたしたちの仙台
ああ 美しい愛 わたしたちの仙台
3. みんなみんな 光になって さあ
育ってゆくこの都市を照らしてごらん
強く強く強く
日本の未来
はじけているよ 地球の朝
あの赤い曙（あけぼの）を突きぬけて
ああ まぶしい宇宙 みんなの仙台
ああ まぶしい宇宙 みんなの仙台

◎仙台の市の歌のあゆみ

1. 旧仙台市民歌（昭和6（1931）年11月14日）
河北新報社創刊35周年記念で公募したものを市に寄贈
佐々木精一作詞 堀内敬三作曲
2. 仙台市制80年をたたえる歌「かがやくあゆみ」
（昭和44（1969）年6月10日）木沢長太郎作詞
福井文彦作曲（現在は使用していない）
3. 交響組曲「仙台讃歌」（昭和52年6月10日）
市制施行80周年記念事業・当日以降の使用なし。

山形市（市民憲章と諸宣言）

山形市市民憲章（昭和54年7月1日制定）

わたくしたちは、樹氷とべに花の里、山形市民です。誇りと責任をもって五つの誓いをいたします。

1. すすんでまちづくりに参加し 明るいまちをつくります
2. きまりを守り、親切であたたかいまちをつくります
3. 働くことに喜びをもち 活気あるまちをつくります
4. 自然を愛し 緑と水のきれいなまちをつくります
5. 老人にはやすらぎ 若者には夢のあるまちをつくります

諸宣言

山形市平和都市宣言（昭和59年3月22日議決）

暴力のない明るい都市宣言（昭和62年3月19日議決）

スポーツ都市宣言（昭和63年12月21日議決）

ゆとり宣言（平成2年6月22日議決）

米等の自給確立都市宣言（平成3年3月22日議決）

男女共同参画都市宣言（平成10年9月21日議決）

山形市民の歌

作詞 神保光太郎

作曲 山形大学教育学部音楽科

- 1 ひんがしに 蔵王を望み
西の空 月山（がっさん）は呼ぶ
春を待つ ひとみはもえて
われら 誇る 山形市民
光はここに 山形 発刺（はつらつ）の都市

- 2 おもいでは 霞城（かじょう）のほとり
山寺（やまでら）や 芭蕉の夢よ
いそいそと 摘むは紅花
われら 誇る 山形市民
光はここに 山形 美（うる）わしの都市

- 3 陽に映える 新しい道
とどろくは 生産（せいさん）の歌
この稔り 日本のいのち
われら 誇る 山形市民
光はここに 山形 逞（たく）ましの都市

福島市（市民憲章と市歌）

福島市民憲章

1. 空も水もきれいなみどりのまちをつくりましょう
1. 教育と文化を尊び希望に輝くまちをつくりましょう
1. 親切で愛情あふれるまちをつくりましょう
1. きまりを守り力をあわせて楽しく働けるまちをつくりましょう
1. 子どもからおとしよりまで安全で健康なまちをつくりましょう

諸宣言

- 交通安全都市宣言（昭和36年12月14日議決）
平和都市宣言（昭和48年3月22日議決）
核兵器廃絶平和都市宣言（昭和60年12月26日議決）
ゆとり宣言（平成2年6月21日議決）
地球環境の保全宣言（平成5年3月19日議決）
交通安全都市宣言（平成10年9月22日議決）

福島市歌

（朗らかに力づよく）

北原白秋作詞

山田耕筰作曲

1. 霊山（りょうぜん）の雲は高く
かがやく 朝光（あさかげ）
生々（せいせい）の気運ここに
殷賑（いんしん）今ぞ勢（きお）う

東北の関門（かんもん） 若きわが都市
栄（はえ）あれ福島 我等（われら）開かん

2. 阿武隈（あぶくま）の水は清く

後あり大仏（おさらぎ）
脈々のまこと夙（つと）に
産業競（きそ）い奮（ふる）う
東北の関門 若きわが都市
栄あれ福島我等興（おこ）らん

3. 青空の下は広く

沃（こ）えたりこの土（つち）
顆（るい）々の果実枝に
桑田（そうでん）いよよ霞む
東北の関門 若きわが都市
栄あれ福島我等仕（つか）えん

6. 6都市の住みよさランキング（東洋経済算出）

自らの住むまち（県、市町村、地域）が住みよいか、否かについて考えたり、疑問を抱く人は少ない。住みにくいのであれば他のまちへ移り住めばよいからである。しかし、それでは問題の解決にはならない。住みにくい点を挙げてこれを改良し、より多くの住民が明かるく、楽しく住めるような施策を行政当局に要求することが必要である。

しかし、これらを数字化し、客観化することは民間人や組織にとっては至難なことである。

経済企画庁（旧組織）はこれを国としてきちんと情報を提供するため、昭和49（1976）年から「社会指標」を作成、公表し、昭和61（1986）年からは「国民生活指標」を作成、公表した。さらに平成4年からは「新国民生活指標（PLI=People's Life Indicators）」を作成、公表してきた。

これがいわゆる全国47都道府県の「住みよさ調査」といったわかりやすい表現で国民に示されたのである。

これは多くの国民の関心の的となった。住みやすい県は北陸3県（富山、石川、福井）が毎年上位を占め、埼玉県が最下位にあると報じられた。

埼玉県知事が「全国で最も住みにくいとされた本県に何故人々が年々転入してくるのか。計測の方法がおかしい」と経済企画庁に怒鳴り込んだといわれるが、その真偽は別として、たしかに住みやすさとか、生活実態を数字化することは困難なのである。

にもかかわらず、東洋経済新報社は毎年様々なデータを駆使して全国695都市についてその〈住みよさランキング〉を公表している（第8表）。

住民はもちろん、行政当局や研究者にとってまたとない資料である。この結果を鵜呑みにす

るか否かはさておき、指標のとりかた、組み合わせかたについて学ぶところは大きく、多い。

2002年版「都市データパック」によって東北6県都の住みよさを紹介したい。この順位をどのようにみるか読者のお声を聞かせていただきたい。

(第8表) 全国住みよさランキング (東洋経済算出)

参考文献…④

		青森	盛岡	秋田	仙台	山形	福島
1998年		261	114	112	350	91	312
99年		295	130	132	361	107	271
00年		299	136	135	361	87	254
01年		189	137	95	319	107	244
02年		161	147	80	314	75	257
項目							
指数	安心	211	231	220	441	277	241
	便利	138	65	61	285	47	201
	快適	241	234	153	92	192	299
	富裕	340	205	339	144	255	325
	住宅	392	551	420	591	447	442
本市より上位に ある県内の市	弘前 113	水沢 72	大曲 5	古川 106	新庄 20	白河 33	
	五所川原 118	北上 125	横手 7	岩沼 106	鶴岡 47	原町 84	
	十和田 144	一関 142	本庄 11	名取 186	長井 62	会津若松 156	
	むつ 145	花巻 143	能代 63	気仙沼 248	山形 75	郡山 171	
	青森 161	盛岡 143	秋田 80	仙台 319		喜多方 179	
県内の市の数		8市	13市	9市	10市	13市	10市

7. おわりに

東北6県の県都をいくつかの手がかりを用いて比較してみた。第2表にみるように6市のうち4市は同時に市制を施行したがその後の歩みはそれぞれ異なる。

市の比較ではないので残念だが、第3表では各県の人口の全国順位を眺めた。大都市圏への人口集中はとりわけ第2次大戦後において著しいが、第4表の下段にあるようにその県の人口の県都への集中度にもまた差をみとめることができる。

地勢や交通、そして雇用吸収産業の多寡などが影響した結果である。市町村合併が促進される中、県都はその周辺地域とどのような関係に立つべきか、当事者としては焦眉の急の問題だが、多くの事例などを参考に第3者としても早急に方向を提言することがのぞまれる。

「住みやすさ」はその住民が感じ、評価することであって、単なるデータの羅列で済むとは

思わないが、もっと多くのデータやその組み合わせによって所期の目的を果たしたいと考える。

「都市の姿」は不動のものではない。刻々と変化している。しかし、多くの住民がそれぞれの知見にもとづき、また必要に応じ、自らの手で「姿」や「像」をつくることが肝要である。既成の概念だけにとらわれず、広く新しい視点に立って、実現可能な「像」をつくる時である。その手がかりは旧経済企画庁などの手によって十分蓄積されている。

父は横浜、母は東京という私にとっていわゆる故郷は無い。しかし、様々な手がかりをもとに、全国各地を巡り歩くことを身上としているので、私にとっては全国どこもが故郷である。

東北の中核都市仙台で過ごす機会が与えられたので、これを契機に東北地域を私なりに描き出してゆきたい。もとよりこの道には多くの先達がおられ、また日本都市学会の地域支部ともいべき「東北都市学会」の研究成果には目を見張るものが多々ある。小論に対する厳しいご批判とご叱正を心からお願いいたしつ。

参考文献

- ①…東洋経済「都市データパック」2002年版
- ②…全国都道府県市区町村別人口（平成12年国勢調査、総務庁統計局）平成12年12月刊
- ③…「各市勢要覧等」
- ④…八幡和郎・47都道府県うんちく事典・PHP文庫・（P31）、1998年刊
- ⑤…「JTB時刻表（月刊）」から加工
- ⑥…「理科年表2002（P264～5）・丸善、平成13年12月刊」から加工
- ⑦…「各市刊行の市勢要覧、統計書、ポケット統計」などから引用
- ⑧…平成13年版「全国都市要覧」、全国市有物件災害共済会